

(学校内で作成する指導計画 記入例)

個別の指導計画 (参考様式)

様式2 (指導に関する記録)

フリガナ 児童名	()年	作成者	作成日 更新日	年 月 日 年 月 日				
日本語力	<p>・基本的な文型で構成された2~3文の会話を、ゆっくりとした速さなら聞いて理解できる。 ・理解できる言葉であっても、自分で話したり書いたりできる内容は限定的である。</p> <p>※児童生徒の日本語の力を、「話す、読む、書く、聴く」の4技能、あるいは①会話力(主として単語での発話か、単語を幾つぐらいつなげて話しているか、どの程度の文が聞き取れているかなど。)②文字の習得度(ひらがな・カタカナ・漢字が何年生程度かなど)③読解作文の力(単文レベルか、重文・複文まで可能か、それらで構成された文章はどのような内容まで理解できるかなど)などの視点から記入する。</p>							
指導目標	<p>【初期の後期段階】</p> <p>①日本語で学校生活に参加するために必要な文字や文など、基礎的な日本語の力を育てる。 ②日本の学校生活や社会生活において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。</p> <p>※一例として、「日本語の能力に応じた指導プログラム例」(※注)の「大目標」等が考えられる。</p>							
指導計画								
「特別の教育課程」による日本語指導	月	4	5	6	7	8	※一例として、「日本語の能力に応じた指導プログラム例」(※注)の「日本語の学習段階」等が考えられる。	
	段階	初期の後期段階						
	日本語学習内容	①日本語の基礎学習						
		②技能別の日本語学習					②技能別の日本語学習	※「外国人児童生徒の受入れの手引き」(文部科学省)p26~の「日本語指導のプログラム」等が考えられる。
		③日本語と教科の統合学習					③日本語と教科の統合学習	
※8月に計画を見直して記載する。					④教科の補習			
指導計画	<p>【前期】</p> <p>①基本的な文型や語彙を使って会話ができるようにする。 ②平易な文で構成された、ある程度まとまった内容の文章を読んで理解できるようにする。 ③教科書を簡単な日本語に書き換えたもので在籍学級の授業の予習を中心に行う。</p> <p>【後期】</p> <p>③算数・理科はなるべく教科書を使い、学習活動に必要な重要表現を取り上げて指導する。 ④未習事項が多いので、在籍学級の学習に関係する内容から補う。</p> <p>※上の表で示した「日本語学習内容」の内容別に記入することが考えられる。 各教育委員会等で独自の「学習段階」「学習内容」を設定している場合は、それに基づいて記入する。 ※一例として、「学習目標例」(※注)を参考に計画すること等が考えられる。</p>							
指導者	〇〇巡回指導員							
指導場所	〇〇ルーム				指導時数	週4時間		
上記以外の指導等	社会科は週2時間 在籍学級でTT指導。 毎週土曜日、国際交流協会が開催する日本語教室へ参加。							
指導内容・方法に関する評価及び学習状況の評価等	<p>・学習意欲はあるが、教科に関する未習事項が多く、授業内容に対応しきれない。 ・関心のある分野であれば、ある程度まとまった文章を理解できるようになった。 ・表現することに苦手意識があるようなので、発言や作文がしやすいような支援方法を検討する必要がある。</p> <p>※どのような指導をした結果、どのような習得結果となったかについて記入する。 今後に向けて、どのような指導をしていくとよいかなどの参考になることを記入しておくことと次年度の指導につなげることができる。</p>							

※注 情報検索サイト「かすたねっと」の「教材」→「指導者」から、資料を検索することができる。